

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700096		
法人名	グリーンライフ株式会社		
事業所名	はびね周南		
所在地	山口県下松市生野屋南1-7-10		
自己評価作成日	令和2年6月14日	評価結果市町受理日	令和3年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

はびね周南はご入居者様にとってのご自宅です。地域で共に暮らす生活者としての日々を大切にしています。地域の子どもの安全を願う、近隣の小学校への交通立哨は9年目を迎えました。児童の学びの一環として、交流の時間を共に過ごす等交流も活発です。他にもスタッフが、花岡小学校や中村小学校で認知症サポーター養成講座を開催するなどの活動もしています。日常の生活に於いては、集団の中の一人ではなく「個」として尊重したいという思いから、個別の関わりを重視しています。1日お1人限定ではありますが、マンツーマンで好きなことにお付き合いする時間を作り「その方の思いに寄り添う」事を形にするよう努めています。日々取り組まれている趣味的活動を、年に1度のはびねギャラリーとして作品展示し、ご家族や地域の方をお招きしたイベントにしています。「自分や家族が認知症になった時、入りたい施設」に1歩ずつ近づいている、そんなはびね周南です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自分や家族が認知症になった時、入りたい施設」を目指されて、気持ち良い挨拶や笑顔でいい対応に心がけておられます。職員は、ライフサポートプランや法人独自のヒヤリングシートなどを活用されて、利用者本人や家族の思いや要望を把握され、お誕生日の個別支援として、自宅で待つ奥さんの分も含めて弁当をつくられ、自宅で奥さんと二人で過ごす時間をつくっておられるなど、「その方の思いに寄り添う」支援に取り組んでおられます。事業所は地域に開かれた施設として、市の認知症サポーター養成講座を受託されたり、公民館で認知症カフェを開催しておられます。学校の協力を得て継続している毎日の交通立哨を通して、新入生への手づくりマスクや卒業生への手づくりマスコット、利用者へのお礼の似顔絵の交換など、小学生との交流を深められている他、地域住民やボランティアの協力を得ての利用者の活躍の場や楽しみづくり、周辺施設との災害時の協体制づくりなど、地域の一員として利用者を支えておられます。職員の資質向上のための研修の充実を図っておられ、その意見を反映させたサービスの質の向上に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員数の2/3くらいが 3. 職員数の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分や家族が認知症になった時、住みたいグループホームをみんなで創る」という理念を掲げ共有している。令和2年度の施設目標は「共育→育成→成就」としている	法人の理念があり、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示して、朝礼時や日常業務の中で確認している。内部研修で理念について学び、日々のケアを理念に結び付けるよう、年度施設目標を定めて取り組み、今年は「共育→育成→成就」を掲げて、職員も個人目標を立て、自らの資質の向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花岡小学校へ下校時の交通立哨、地域交流センターへのクリーン作戦、おれんじかふえ「きつねのより道」運営、近隣施設や行事の招待を受け地域の催しに参加している。またホームのイベントに地域の方を招いている	自治会に加入し、総会や地域交流センターのクリーン作戦に職員と利用者が参加している。小学校の協力を得て、下校時の交通立哨を毎日続けており、小学校での立哨の会へ参加して6年生と交流し、卒業時に地域の人や利用者と職員でつくった手づくりマスコットを贈ったり、新入生に手づくりマスクのプレゼントを贈り、お礼の似顔絵をもらうなど、親交を深めている。事業所の運動会、餅つきに家族や他事業所の利用者、ボランティア、地域住民の参加がある。毎月、押し花教室や絵手紙教室の指導者が来訪している他、ボランティア(三味線、ハーモニカ、体操、歌謡、大正琴、日本舞踊、オカリナ、バンド演奏など)の来訪があり、花の消毒など地域の人たちの支援を受けている。自治会の人交代で3人来訪し、アコーデオン演奏やカラオケ、歌などで利用者と交流している。市の委託事業として認知症予防教室や認知症サポーター養成研修、認知症カフェ(公民館)を開催し、利用者もカフェと一緒に参加したり、職員と一緒にチラシを配布したりしている。カフェで習字教室を開いたり、市のカサブランカー一人一鉢運動に参加するなど、地域住民との交流を広げ、散歩時には近所の人と挨拶を交わしているなど、事業所や利用者が地域の一員として日常的に交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	おれんじかふえ「きつねのより道」 認知症予防教室運営 認知症サポーター養成講座	/	
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	話し合いを行い、自己評価後その結果をフィードバックしている	自己評価は、職員の意見をユニット毎に回覧し、ユニットリーダーや計画作成担当者、管理者が話し合っておりまとめている。ケア会議で話し合い、職員は緊急時の対応について振り返り、新規にAEDを設置し、内部研修での訓練につなげている。職員はケアを振り返り、個別に学びを深めるなど資質の向上に努めるなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。外部評価結果は回覧して、ケア会議で話し合い、運営推進会議や家族会で報告している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で現状のサービスや利用者様の実際を話し合い意見を頂戴している。また、運営推進委員の方々にも夏祭りや運動会、餅つき大会等のイベントに参加して頂く事でスタッフの表情、動きも見て頂き意見を頂戴している。	会議は2ヶ月に1回、拠点事業所(デイサービス)と合同で開催し、利用者の近況や行事報告、インシデント・アクシデント報告、福祉の里連絡協議会の報告、外部評価報告などを行っている。事業所の運動会や餅つきと併せて実施して、地域の人との交流の様子をみてもらったり、給食試食会を実施して意見を得て、給食委員会で検討して味付けの改善を図る、他事業所との情報交換を行い対応の改善につなげる、年3回、他事業所の利用者との交流をするなど、サービス向上に活かしている。新型コロナの影響で4月からは書面での開催としている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への市職員の参加、おれんじかふえ「きつねのより道」、認知症サポーター養成講座、認知症予防教室等、はびねの取り組みやケアサービス等の実際を見て頂き、日頃から緊密に連携している。	市担当者とは、認知症サポーター養成研修や認知症カフェ、認知症予防教室実施時、窓口に出向いた時、電話やメールなどで相談したり、入居者状況や待機者情報など情報交換を行って助言を得ている他、県担当課や市担当課の協力を得て、土砂災害時の地域との連携に取り組んでいるなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議参加時などで困難事例の相談や情報交換を行って連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の施設内研修の実施(今年度は8月と来年に1回開催予定) 身体拘束委員会では月に一度身体拘束が行われていないかの確認や、ケア方法等の確認を行っている。	法人の指針と身体拘束廃止のマニュアルを活用し、職員は年2回、内部研修で学んで身体拘束について理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。月1回のリーダー会議に併せて身体拘束廃止委員会を開催し、ケアの確認をしている。スピーチロック等気になる場所は、職員同士で注意し合ったり、管理者やユニットリーダー、外部講師を招聘した法人研修(4回)を受講した接遇トレーナー(職員)が指導している。玄関の施錠はせず、フロア毎に見守りの職員を配置している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を実施している。スタッフは研修参加後に研修記録を作成し、研修内容の振り返りを行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を毎年実施している。令和元年度は 月 日		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書類に沿って丁寧に説明し同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談、苦情等の受け付け体制を説明している。また、ご家族様からのご意見や、ご要望を受けた際には適切に対応し、運営に反映させている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。事業所内に御意見箱を設置し、年1回、法人として家族アンケートを実施している。運営推進会議参加時、面会時、電話などで、家族から意見や要望を聞いている他、事業所行事や誕生会の参加時に個別に話し合ったり、ケアプラン更新時にヒアリングシートに要望を言語化している。毎月送付している事業所だよりに加え、コロナ禍になってからは、毎月の請求書送付時に利用者の写真と利用者を担当している職員のコメントを記した文書を送付して、日頃の様子を一層分かりやすく伝える工夫をして、意見や要望を出しやすい環境づくりに努めている。コロナによる面会制限について意見があり、安全性に配慮し、個別の事情に合わせた面会方式を取り入れるなど、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議や、随時管理者やリーダーと意見交換を行うことで提案等聞く機会を設けている。	毎月のユニット毎のフロア会議やリーダー会議、行事、園芸、衛生などの各委員会、全体会議、月1回の研修会、朝の申し送りなどで職員の意見や提案を聞いている他、管理者は出退勤時など日常的にコミュニケーションをとることに努め、その都度意見を聞いて、職員間での話し合いにつなげている。職員間での話し合いから、利用者の状態や好みに合わせた食事の改善や、楽しみの提供(居酒屋風メニューの女子会の開催)、ケアの工夫による消耗品(おむつなど)の適切な提供をするなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度の活用		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修・本部研修・OJTを進めている。新人スタッフにはよく声をかけ、なんでも話しやすい関係を築いている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて受講の機会を提供している。今年には介護福祉士養成研修(2人)や実践者研修(1人)を受講し、受講後は報告書を提出し、復命研修を行っている。法人研修は、新人研修、現任者研修など段階別、職種別、テーマ別(接遇、認知症、コーチング、アンガーマネジメントなど)の研修を県外で実施し、受講している。内部研修は、年間計画をたて、月1回、管理者や職員が講師となって、災害対策、緊急時の対応、倫理・コンプライアンス・個人情報、ケアプラン、高齢者虐待、感染症・食中毒、身体拘束廃止、事故防止・予防、苦情受付対応、認知症ケア、看取りなどについて実施している。5月からは、コロナ感染拡大防止のため集合研修とせず、資料の配布を行い、全員がレポート提出して管理者が確認する個人ワークとしている。法人の接遇研修(年4回)を受けた接遇トレーナーが、マニュアルを作成し、職員の指導をしている。職員毎に個別研修ファイルを設け、資質の向上に取り組んでいる。資格取得への支援を行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に一回市内のGH連絡協議会、ホーム夏祭りや運動会に他GHの利用者やスタッフが参加し交流している。他施設の祭りへスタッフが参加している。また、おれんじかふえに他施設のスタッフが手伝いに来る等の交流がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはSS等利用して頂く事で十分な関わりを持ち、入居後も同じスタッフが対応することで不安等少なくなるよう配慮している。不安なことがある利用者様とは安心されるまで傾聴する(1対1で)。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	DSやSS利用で、入居前から顔馴染みの関係を築いている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り、DSやSSを利用して頂き、必要な支援を見極め調整している		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	イベント、音楽、お散歩、畑仕事等、一緒に楽しみ、一緒に家事をしたりし、ともに生活する関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日レク、誕生会、受診等、ご家族様も参加されている。ご家族様からご利用者様へ電話をかけてこられる。共に利用者様を支えていく関係を築いている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会。外出支援では故郷や自宅に帰る等も実施している。	家族の面会や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、電話や絵手紙での交流を支援している。馴染みのスーパーでの買い物や美容院の利用、墓参り、農協に苗を買いに行き、植える、友人に会いに行く、個別支援として、誕生日に弁当を持って一時帰宅し、奥さんと二人で過ごす時間をつくるなどの支援を行っている。家族の協力を得ての旅行、正月の一時帰宅や定期的な帰宅、外食、外出、法事への参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日GH合同でのレクリエーション、毎週日曜日に合同でカラオケ、お弁当の日や昼食作りの日には合同で昼食。また、日常的に外気浴時には顔を合わせ自然とお話ができたり、席への配慮をし馴染みの関係ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族との手紙のやり取りや各行事への参加のご案内をし、来訪されている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から意向の把握に努めている。困難な場合でも、本人本位に検討している。不安や不満を話された時は、スタッフ間で解消する方法を話し合っている	法人の包括的自立支援プログラムのケアチェック要約表を活用してアセスメントし、日々の関わりの中での利用者の行動や言葉を支援経過記録や日報に記録して思いや意向の把握に努めている。誕生日や月2、3回(午後の2時間)の個別支援の時間に、職員と1対1で過ごす時間を設け、利用者の思いや要望を聞いている。写真を撮って本人の表情を確認し、笑顔が見られる活動を本人の思いとしている。ライフサポートプランや法人独自様式のヒヤリングシート、モニタリングシート、支援経過記録等を活用して職員間で情報を共有し、フロア会議で検討している。困難な場合は家族から聞いたり職員間で本人本位に話し合い、思いの把握に努めている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけではなく、ご家族や担当のCM、DSのスタッフからも聞き取りを行っている。			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づいたことはスタッフ間で共有し話し合っている。サービスに反映できている			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した計画となるよう、変化に応じて計画変更している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、利用者や家族の意向を記録したモニタリングシートや6ヶ月毎に作成しているヒヤリングシートを基に、主治医や看護師、栄養士などの意見を参考にして、毎月フロア会議で話し合い、介護計画を作成している。毎月1回、モニタリングを行い、6ヶ月毎に計画を見直しをしている。利用者の状態に変化があるときはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録や、スタッフの連絡ノートを活用している		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のご希望によりご自宅までお迎えに上がり日中GHで過ごして頂いている。また、独居になられたご家族の相談を受け、ケアマネージャーを紹介したり、配色の手配などを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月曜日から土曜日、近隣の地域住民が毎日夕方に来て下さり、アコーディオン、腹話術、手品、大正琴、カラオケ等、おしゃべりを交え楽しんでいる。近隣の友人宅への訪問。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の往診以外に、外部のかかりつけ医や、専門医への受診している。	利用者の多くが協力医療機関をかかりつけ医とし、これまでのかかりつけ医を継続している利用者もある。他科受診を含め事業所が受診支援しており、状況により家族の協力を得ている。協力医療機関から週1回の訪問診療があり、月2回の歯科訪問診療がある。居宅療養管理指導の薬剤師が週1回来訪し、助言を受けている。拠点施設の看護師が利用者の健康管理や職員の相談に対応している。医療機関に本人の状態を伝え、受診結果は受診簿に記載し、家族に伝えている。夜間や緊急時は看護職員の管理者を中心に協力医療機関と連携して、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃からGHの看護師だけではなく、DSの看護師とも連絡や情報交換を密に行い、何かあればすぐに医療者と連携を取れるようにし、看護師は適切に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず、医療機関と情報共有している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に重度化した場合や、終末期に関する同意書を提出して頂いている。終末期に関する研修を実施している。	指針があり、契約時に事業所でできることについて本人や家族に説明し、終末期の対応についての同意書を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から本人の状態について医師の意見を聞き、家族や医師等と話合って移設も含めて方針を決め、本人や家族の意向に合わせて同意書を取り直している。職員は関係者と方針を共有して、チームで看取りの支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント、アクシデント報告書活用している。リスクマネジメント委員会で分析、再検討し再発防止に努めている。	事例が生じた場合は、当日の職員が話し合い、インシデント・アクシデント報告書に記録して、申し送りで伝達し、全職員に回覧している。月1回の全体会議で再検討し、ユニット毎のフロア会議で確認している。リーダーがインシデント・アクシデントの発生要因などをデータ入力し、リスクマネジメント委員会で分析して、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止や再発防止に努めている。スタッフルームにマニュアルを設置し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。内部研修で、感染症・食中毒、事故発生防止・予防、緊急時対応について学んでいる他、日々の実践の中で拠点施設の看護師から、褥瘡のケアや安楽な体位、緊急時の対応などの指導を受け、全職員が実践力を身につけるよう取り組んでいる。AEDを設置し、研修で訓練をしている。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施、県の土砂災害訓練に参加している	年2回、拠点事業所と合同で防災訓練を実施している。内1回は消防署や関係機関の協力を得て、夜間火災、土砂災害を想定した、通報、消火、避難訓練を利用者も参加して実施し、1回は避難訓練、避難経路の確認、通報訓練や避難訓練の実施等を行い、職員は利用者が避難できる方法を身につけるよう取り組んでいる。事業所が山の斜面に隣接しているため、想定される土砂災害に対応して、県担当課や市担当課の協力を得て地域との連携に取り組み、近隣の病院や福祉施設からなる「福祉の里連絡協議会」に参加して、緊急連絡網を整備し、県の土砂災害通報訓練に参加しているなど、地域連携体制の構築に取り組んでいる。備蓄や福祉の里連絡協議会構成施設の相互の利用者の受け入れ態勢の整備などを図り、今年7月の豪雨の際は利用者を全員、近隣他施設に緊急避難させることができたなど、経験を積んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待、不適切ケア、接遇等の研修を行っている。現場で不適切ケアと思われる言動や態度があれば、口頭で直ぐに注意している。	職員は研修で認知症や倫理・コンプライアンス・個人情報保護、高齢者虐待防止、接遇、身体拘束、などについて学び、人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努め、気になる場所があれば管理者やリーダー、接遇トレーナー（研修受講職員）がその都度、指導している。書類の保管に配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望（ごはんではなくてパンが食べたい、お好きな飲み物が飲みたい、入浴の時間等）を表出できたり、どちらが良いかなど自己決定できるように働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マンツーマンで関わる個別の時間がありお一人お一人のペースに合わせた関わり方を行い希望に応じている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や、服の選択などその方に応じて対応している。また、「素敵ですね」と声をかけることでおしゃれを楽しんでいただけるように支援している。介助が必要な方でも整容には十分注意し、身だしなみを整えるようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割を持ち、食事作りや準備に参加している。他にも、昼食レク・お菓子作り・弁当の日・外食・そうめん流し・ビアガーデン、日清さんのご協力によりモスバーガーの日や牛丼の日など作って頂き、食べる楽しみを感じて頂けるよう支援している	朝食はユニット毎に調理し、週1、2回はパン食としている。昼食と夕食は拠点の厨房からの配食を利用している。職員が工夫して、利用者の状態に合わせて食べやすい形状で提供し、食欲が増すよう、食器や盛り付けに工夫している。管理栄養士を中心に給食委員会で話し合い、利用者の好みや栄養のバランスを考慮し、家庭的な献立を立て、畑の収穫物(ジャガイモ、玉ねぎなど)や旬の野菜(きゅうり、トマト、オクラ、トウモロコシ等)、利用者と一緒に採取した、筍、フキノトウ、露、栗などを使い、調理している。利用者は盛付け、おしぼり配布、テーブル拭き、お茶くみ、配膳、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。月に2回、ユニット合同でお弁当の日を設けて、一緒に食事やカラオケなどのレクを楽しんでいる。ユニット毎におやつづくり(紫蘇ジュース、甘酒、ゼリー、ホットケーキ、など)や月1回の昼食レク(豚汁、居酒屋風女子会など)、誕生日のケーキづくりをしている。誕生会(ちらし寿司や天ぷら、茶わん蒸し、ケーキ)や弁当を持参しての外出(ブドウ狩り、梨狩り)、拠点事業所と合同での野点、屋台のおでん、甘酒、クリスマス会、餅つき、お誕生日レクでの個別の外食、家族の協力を得ての外食を支援するなど、職員が工夫して食事が楽しみなものになるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に応じた形態で食事を提供している。水分量も計測し十分に補給している。時には食事の時間には食べれない時もあるので、食べれる時に食べれるものを提供できるようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアに加えて、月に一回歯科医師より往診を受ける等、口腔衛生に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中のオムツ使用は極力なし。可能な限り、トイレでの排泄を目指している。排泄パターンや習慣を理解し支援をしている。定期的なトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導をしている。その人に合った消耗品の利用について改善したり、車イスの人も個室のトイレで便座に座ってもらうなど、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分、お茶寒天、グリーンスムージー(牛乳、ヨーグルト、バナナ、小松菜)等の経口的な支援と食事後に便器に座る習慣を維持することで、可能な限り薬に頼らずに済むようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日夕方の入浴。ご希望のないかたは週3回実施。希望者は毎日。また、スタッフの介入を嫌がられる方は、ご家族に協力を依頼するなど、個々に応じた支援をしている。	入浴は毎日、15時30分から18時までの間可能で、少なくとも週3回は入浴できるよう支援している。希望すれば毎日いつでも入浴でき、一人ひとりの希望に添ってBGMを流したり、歌を歌う、職員とゆっくり会話をする、柚子風呂、花風呂などでくつろぎ、入浴後に好きな飲み物やアイスクリームなどを準備して入浴を楽しめるようにしている。利用者の体調に応じて、シャワー浴や清拭、部分浴の支援を行い、必要に応じてユニット同士の職員や拠点事業所の看護職員の協力を得て支援している。入浴したくない利用者には無理強いせず、日にちや時間、職員の変更、言葉かけの工夫、家族の協力を得て娘と一緒に入浴するなどの工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて、日中静養される方もいるが、午前中を中心とした外気浴散歩、園芸活動等の取り組みで、基本夜間は良く休まれている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用について理解するよう努めている。誤薬がないようチェックシートを使用し重ね重ね確認をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	交通立哨活動、ギャラリー作品作り、菜園での作業や収穫、調理、季節毎の行事や、ボランティアによる慰問、外部の行事への参加 花見 他多数	拠点事業所と合同で楽しむ運動会、餅つき、野点、桜のライトアップ、しめ縄づくり、クリスマス、ボランティアとの交流、デイサービス利用者との合同レクリエーション(誕生日会、ハッピーパーティ、風船バレー、輪投げ、体操、リハビリ体操、ボール遊び、テーブル卓球、お手玉、外気浴でのレクリエーションボール投げ、靴飛ばしなど)、誕生日会、押し花教室、絵手紙教室、2ヶ月に1回の訪問理美容、テレビの視聴、ピアノ演奏を聴く、ラジオ体操、本や新聞を読む、壁面飾りの作成、歌を歌う、ちぎり絵、ぬり絵、折り紙教室、押し花、習字、カレンダーづくり、百人一首、カルタ、クラフトかご作り、小学校新入生へのプレゼントづくり(手づくりマスク)、絵本の読み聞かせ、将棋、カラオケ、おやつづくりや誕生日のケーキづくり、季節の食品づくり(柚子茶、梅ジュース、紫蘇ジュースなど)、雑巾づくり、掃除機やモップかけ、食事の準備や片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑づくりなど、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の時間に好きなことをして頂く、好きなものを食べて頂く、出かける等支援している。誕生月には希望に応じて遠出をすることもある	弁当を持参しての季節の花見(コスモス、紅葉)やブドウ狩り、梨狩り、ドライブ(桜、紫陽花、菜の花見物、海を見に行く)、近くの里山での山菜とり(筍、フキノトウ、つくし、蕨、野イチゴ、栗、ウラジロ)、毎日の小学校の交通立哨、小学校での年2回の立哨の会、回覧板の回覧、近隣施設の行事(交流センターのクリスマス会や音楽会など)への参加、受託している認知症カフェ(花岡公民館)への参加、誕生日レクの個別外出支援(利用者の希望を受けて、喫茶外食、柳井フラワーランド、墓参り、入浴と外食、弁当を持っての一時帰宅など)、周辺の散歩、畑の苗植え、水やり、草取り、収穫、花の手入れ、買物、外気浴、家族の協力を得ての法事への出席、外食、正月の一時帰宅、旅行など希望に添って外出できるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望により一緒に買い物に行き楽しんで頂く(金銭は施設が立て替えている)		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのようにしている 電話がかかってきた場合でも速やかに取次ぎ、ゆっくりと会話が楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の壁飾り、換気、エアネスの導入 必要以上の音がすることがないように食事時も配慮している。	共用空間には季節の花を飾り、利用者の作品や季節の壁飾りで、生活のぬくもりや季節感を感じることができる。対面キッチンに面したゆったりとしたリビングダイニングは、食事の準備をする音や匂いが漂い、家庭的な雰囲気味わえる。食卓テーブルや椅子、テレビやソファを配置し、利用者は思い思いに過ごしている。畳のスペースを昭和コーナーとして懐かしい生活用品を展示している。感染防止策として面会時に談話コーナーを設置している。温度や湿度、換気、防臭、空気清浄などに配慮し、居心地よく過ごせるようにしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるようソファ等配置し、利用して頂いている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた好みの物や、馴染みの物、家具を置き居心地の良い居室にしている。また、ご自分が作られた作品や習字、外出時の写真を飾っている。	寝具やマットレス、テレビ、テーブル、いす、整理ダンス、洋服ラック、鏡、時計、ぬいぐるみ、化粧品などの日用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族や自身の写真、行事の時の写真、カレンダー、絵や習字など本人の作品、家族から贈られた飾り物、スタッフからのメッセージカード、生花、観葉植物、庭の花などを飾って、その人らしい居心地のいい空間をつくっている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かりやすいよう、表札をつけたりと工夫している		

2. 目標達成計画

事業所名 はびね周南

作成日: 令和 3 年 1 月 6 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	1年に1回は必ず事故発生防止、予防、緊急時対応の研修を行っているが同じ内容のアクシデントが起こっており、事故防止が実践できていないのではないか	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけ、事故発生時の速やかな対応、また、事故の防止に努める事ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員がインシデント、アクシデントの発生要因を確認し事故防止に努める ・引き続き定期的な研修の開催 ・毎月フロア毎の会議で、事故防止の為の意見交換や、緊急時や感染症応の手順を確認する 	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。